海鳴りは嫌い

寝つけない私を
絶え間なく
責めているように
感じるから

水
飲も・・・

はっ

あの日の夜を
思い出すから

コミティアの人気作家
ITAN初登場!

海と耽溺

ひるのつき子

☆この物語はフィクションです。実在の人物・団体・事件などとは関係ありません。

その部屋は
お父さんとお母さんが
生きてた頃

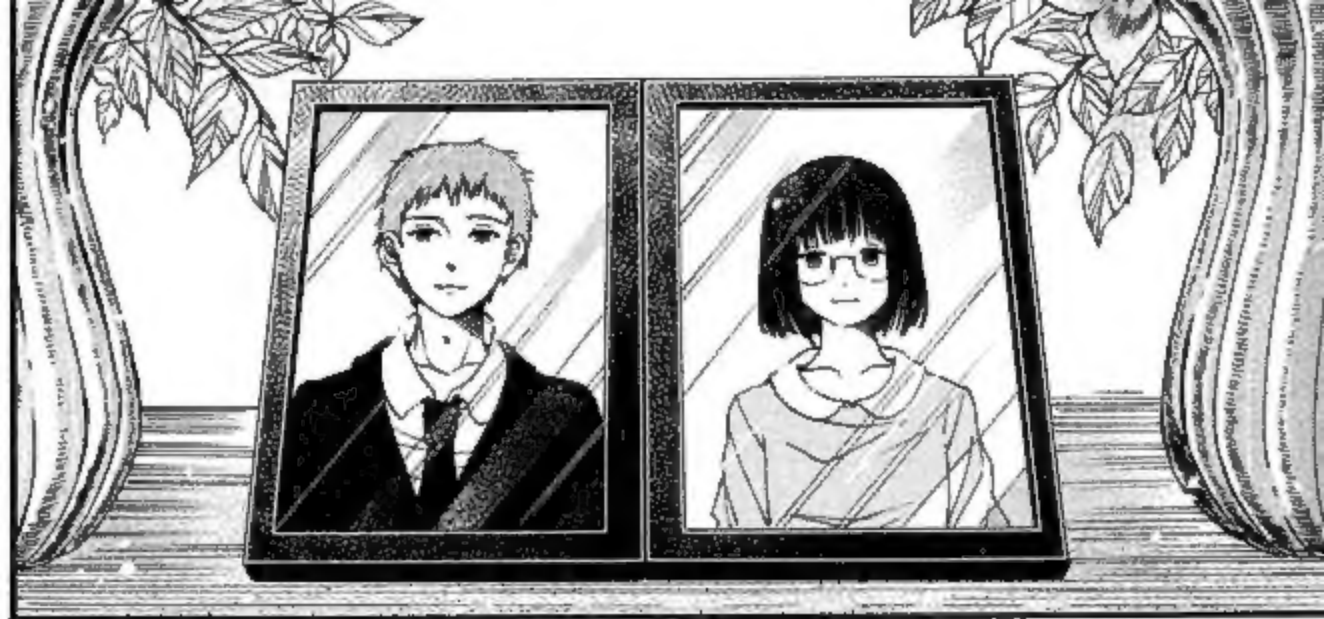
毎日３人で
川の字で寝てた
大切な場所だった

はぁ
はぁ
あ
んっ あ
あんっ
あ

海と耽溺 前篇

―その恋は　美しく　気高いですか？
純真と欲望を巡り探る　前後篇

ひるのつき子

ピンポーン
いらっしゃい
汐くん
渚さん
あら
もう
来たのかしら
パタ
パタ…

汐おじさん!!
来るなら
教えてくれれば
良かったのに
砂帆
私が呼んだのよ
お盆だから
線香の
ひとつでも
あげないと
死んだ叔父さんに
怒られるってな
ありがとう
お父さんと
お母さんも
喜んでるよ
──そっか
そうだよね

汐くんも もっと遊びにきてくれればいいのに
ねえ？
せっかく親戚同士近くに住んでるんだから
特に砂帆ちゃんにとっては唯一のいとこなんだし
……そうですね
……
さ 砂帆ちゃんね 相変わらず汐くんの本ばかり読んでるのよ
特に ほら… デビュー作の…
「海と耽溺」ですか？
そう それ!! 毎日読んでるのよね？
──そういえば 汐おじさん 新作の執筆はすすんでる？

ああ もうすぐ書きあがる

本当!?

わーすごく楽しみ

できあがったら最初に読ませてね

…砂帆ちゃん無理言っちゃダメだよ

ただでさえ普段からお世話になりっぱなしなんだから

汐くんも忙しいだろうに いつも砂帆ちゃんの相手をしてくれてありがとう

いえ 叔父さんが礼を言うようなことじゃないですよ

砂帆が勝手に俺の家に来てるだけなんで

それに別に相手にしてないですから

え 汐おじさんひどい!!

嫌なら玄関にカギかけとけばいいでしょ

―でも
砂帆ちゃんも
そろそろ遠慮
しないとね

汐くんと
渚ちゃんも
そろそろ
結婚を
考える時期
だろうし

やだ
おばさん
私はともかく
この人は
結婚できるような
人間じゃないですよ

あはは

もう
絶対
無理

ザ

久しぶりに
汐くんたちと
食卓を囲めて
楽しかった
わね

ザー

今度また
お食事にでも
呼んでみようか
砂帆ちゃんも
向こうでご飯
ごちそうになってるし
お礼も兼ねて

ね 砂帆ちゃん
どうかしら？

ほらぁ ミカ 早く蒼乃さんに プリント渡しなよ
わかってるよー でも…
蒼乃さん 怖いんだもん いっつも本読んでて 何考えてるのか わかんないし
ねーカナコ 代わりに 渡してきてよ
えヤダ 無理
あ
ペラ
まーた その小説 読んでんのかよ
航太郎
昔っから 本ばっか読んでて よく飽きねーよな
これ おまえの プリント

海と耽溺
蒼乃汐
そもそもさ その小説の何が そんなにいいんだよ
とことん 綺麗なところ
皆と違って プラトニックで 相手に触る こともしない
ただ好きって 気持ちが 純粋に あるだけ
そんな恋愛って 綺麗じゃない？
航太郎 ちょっと いいか
……よくわかんねーけど 恋愛なんて 欲望にまみれてんのが 普通なんじゃねーの？
そんなこと ないもん
おー
今度 合コン するんだけどさ

この間 彼氏と
あそこのラブホ行ったんだけど
そこのアメニティがまんと

おまえに借りたA
超良かったわー
あの女優初めて

昨日の体育
星野さんのおっぱい
まじやばかったな

そう
って思って
部屋に
たけどさ

グラビア

グリスマも
童貞卒
おまえ協力して

に手出して
らってんの
の
ろって

彼女が3ヵ月目で
やっとキス
させてくれてさ

なんか他校の友達が
できちゃったかもとう
言ってて
安全日だからって
生とかありえないっ

のためサイフ
ントム入
良かった

生理きた
もー超安心
したわ

明日 初めて
家行くんだけど
どーすればいいかな

こないだ
兄ちゃんが
隣の部屋
声丸聞え

やだ

はあ
はあ
蒼乃
汐おじさん!!
ガタン
……?
消火器

汐おじさん…
砂帆ちゃん
あれ？渚さんいたんだ
今日仕事休みなの？
う うん
あ
汐おじさん何やって…

ビク
砂帆
……

…タバコ買ってくる
ドクン
バタン
ドクン
――変なとこ見せちゃってごめんね
……砂帆ちゃん?
あ う あの
っ付き合ってるんだから
当たり前のことだよ

"付き合ってる"ね……
ドクッ
汐は私のことそんなに好きじゃないわ
ドクッ
ドクッ
そ そんなの嘘でしょ?
だって渚さんはずっと汐おじさんと一緒に……
あの人ね ずーっと片想いしてるの
昔から見てるとなんて未練がましい男なんだろうって
こっちがやきもきしちゃうくらい ずっと

私の 綺麗な場所が
汚れてく

はぁ
はぁ
はぁ
やだ
はぁ
こんなの見たくない
汐…

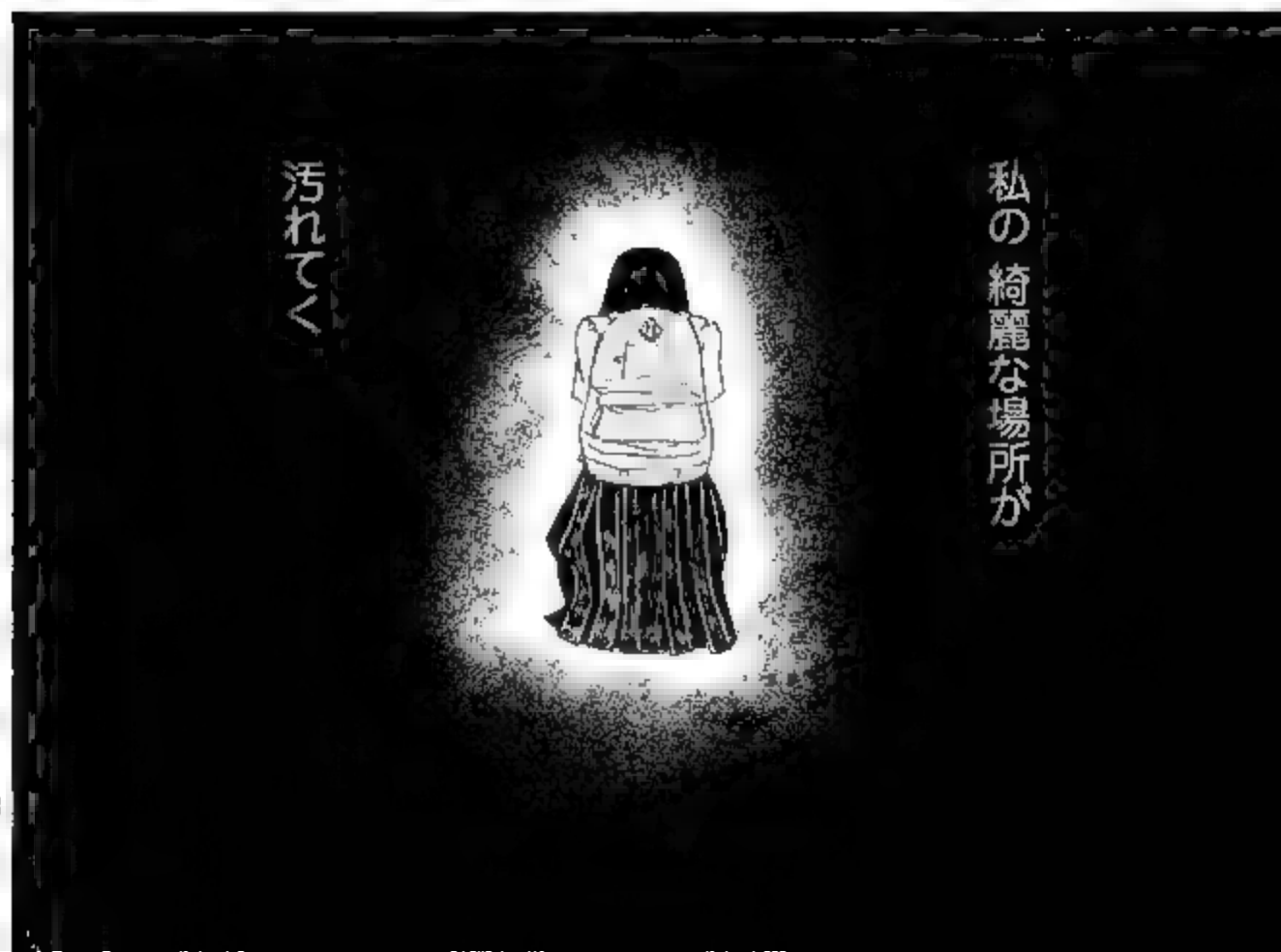
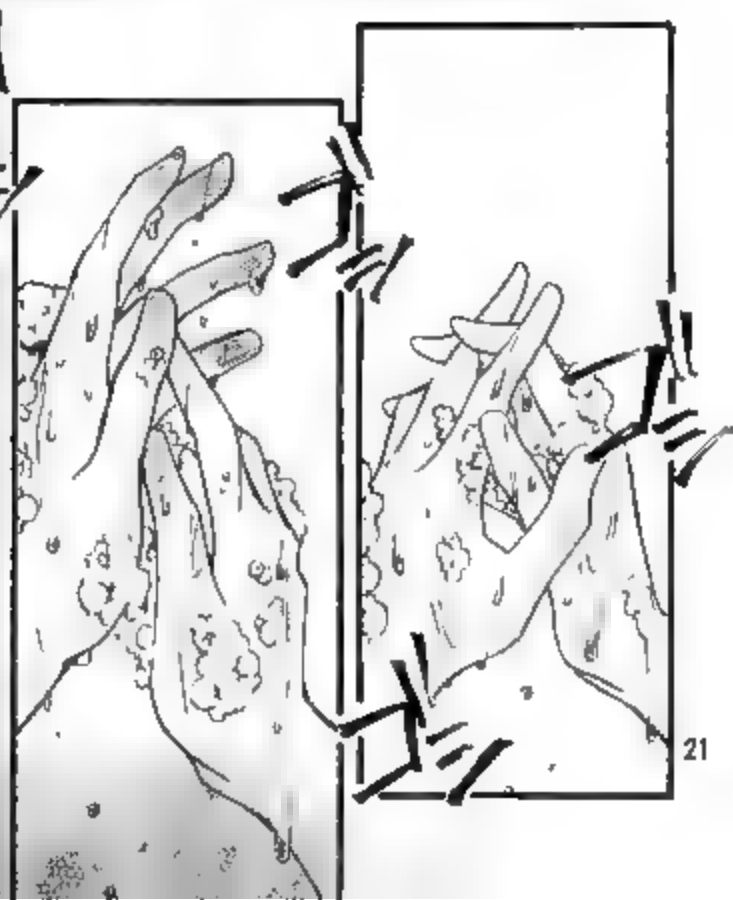
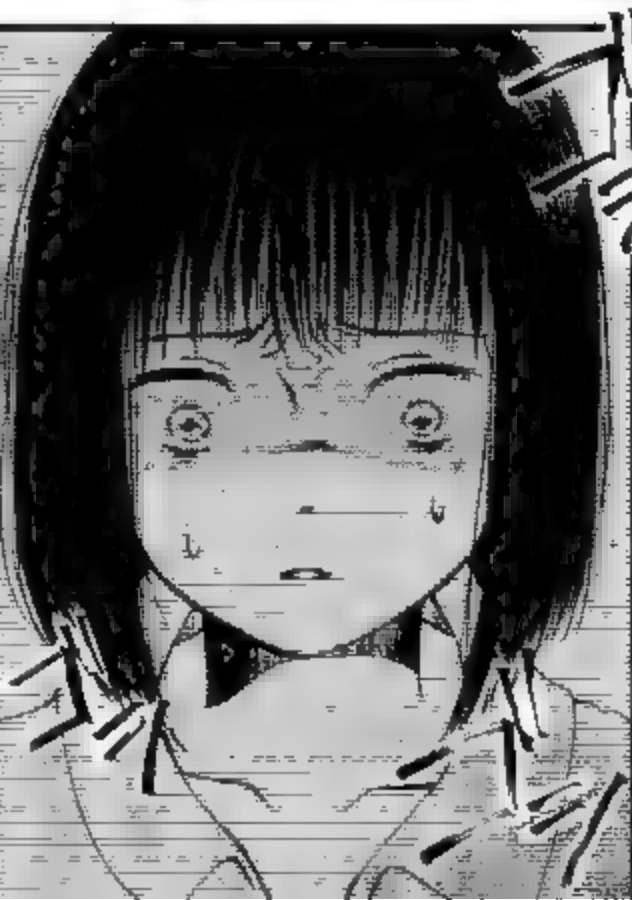
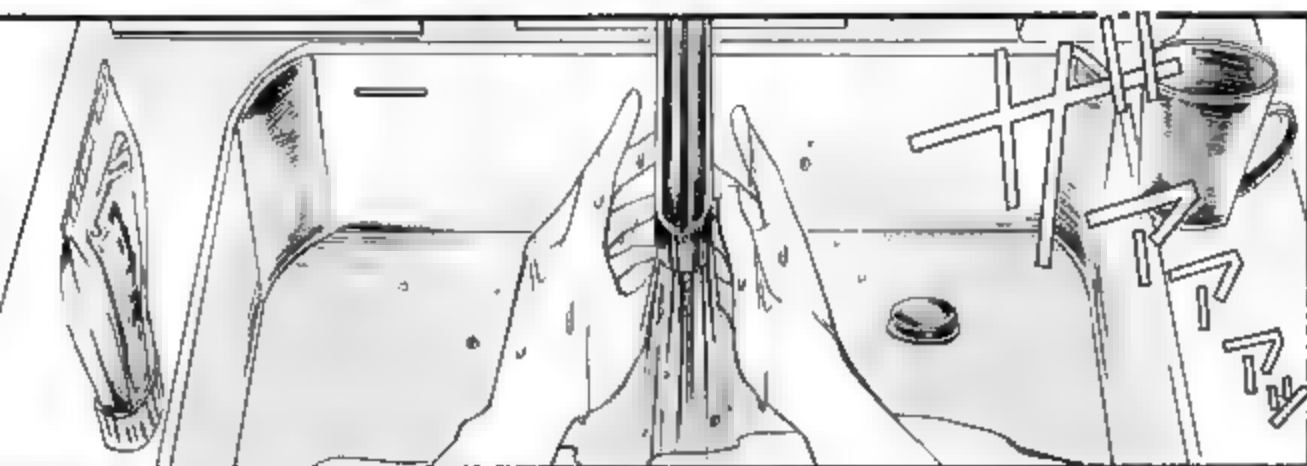
砂帆

ポタ
……
ダダダダ
ザァーァーァッ
ゴシゴシ
ゴシゴシ
ゴシゴシ

砂帆ちゃん

支度が終わったら居間に来てくれる?

…あの何か用ですか…?

僕たちは今までちゃんと話し合いをしてこなかっただろう?
でもいつまでもそうやっていたら何も変わらないだから本音で話し合おう
……別に話し合わなきゃいけないことなんて何も…

ねぇ・・・
教えてくれないと何もわからないの
お願いよ
砂帆ちゃん
あ
あう
砂帆ちゃん

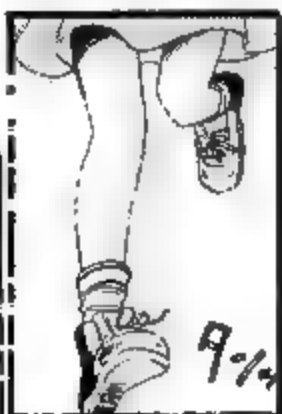
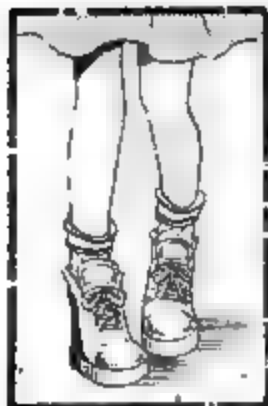
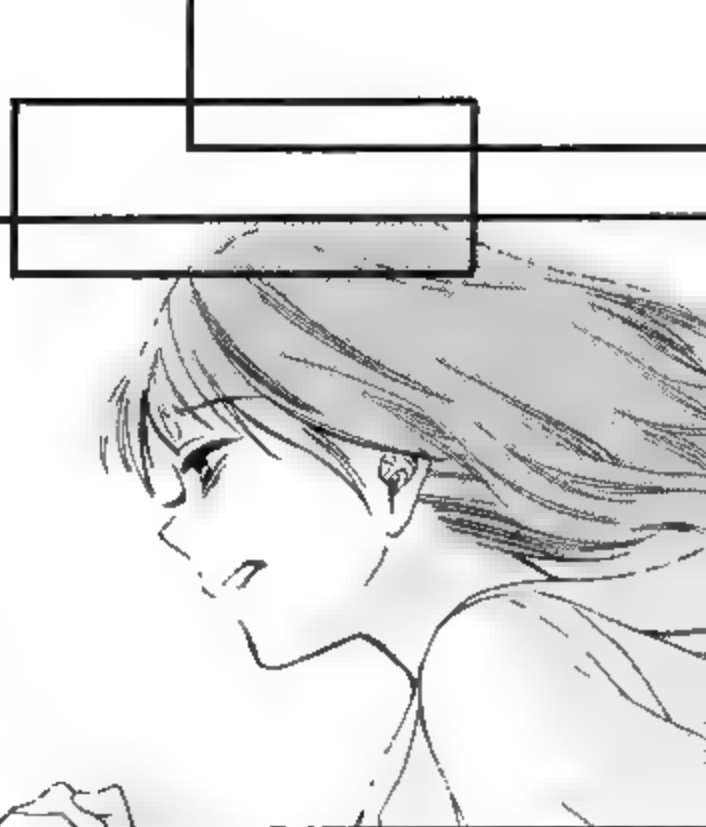
タッ
私…
どこに行けば
いいんだろ
ミーン
ミーン
ミーン
そうだ
汐おじさんの
ところに・
……

ピク

そういえば私
お金持ってない…

あ

あらっ
砂帆ちゃんいらっしゃい
そんなとこつっ立ってないで早く入りなさいよ
あ いえ
あの…
今ちょうど汐くんも来てるわよ
あの
私…
あの…
コーヒーおごってくれてありがとう
ああ…
……

……

う
汐おじさんって

小説書く時
あんな顔
してるんだね

私
はじめて見た

きっと
小説を書くことで
救われてるん
だろうなって

あの顔を見てたら
そう思った

……
私もね

汐おじさんの
小説に
救われたんだ

初めて「海と耽溺」を読んだのは9歳の時だったかな
仏壇に置いてあったのを手に取ったの
…ガキにあの話は理解できねーだろ
うん
確かにちゃんとは理解できてなかったと思う
人妻を好きになる男の話なんて
当時は難しすぎて
でもね
膨らむ想いを隠しながら
相手に触れることもせずにただひたすら恋焦がれる
そんな主人公がすごく綺麗に思えて
私もこうなりたいって
それであの小説が好きになったの

きっと おまえは
表面的なところしか
読めてないいんだよ

……
そんなこと
ないもん

砂帆？

私ね
小さい時
伯母さんたちが
してるところを
見たことが
あるの

私…
怖くて
動けなくて
その場で
思い出の場所が
汚れてくのを
見てた
お父さん
お母さん
ごめんなさい

そんな時 読んだのが 「海と毒薬」 だったんだ
――さっきね 叔母さんに 何を隠してるのか 訊かれたの
でも こんなこと 言えるわけ ない
私のためにって 自分たちの家を 捨ててきてくれて 面倒を見てくれて…
本当に いい人たちなのに
なのに どうしても 昔の記憶が 消えないの
私 どうしたら いいんだろう

…辛くなったら
今までみたいに
家に来ればいい

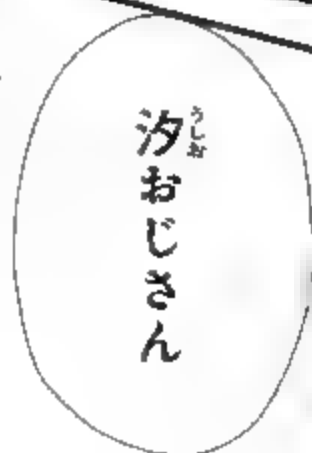
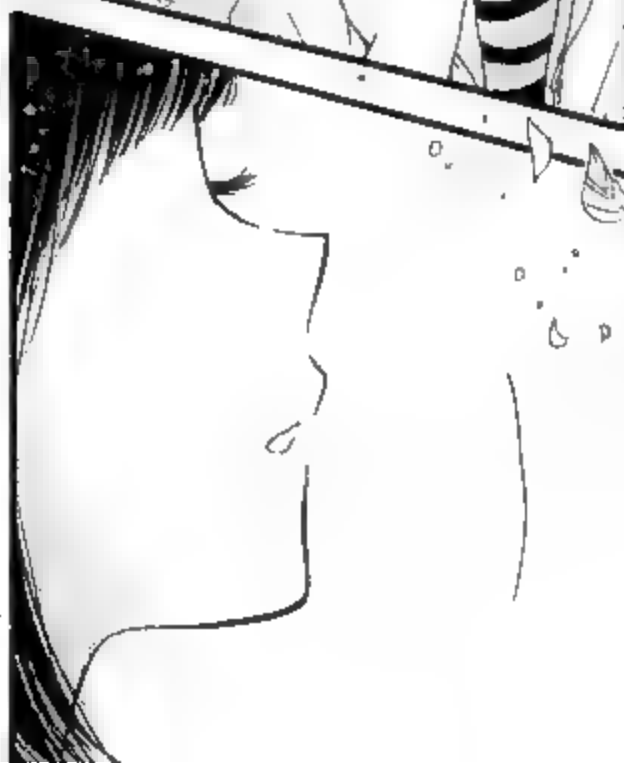
おまえは
来づらいかも
しれないが…

でも私
邪魔だし
迷惑なんじゃ…

迷惑なんかじゃ
ない

だ…
だって
この間
渚さんと…

いいか
おまえが そんな
心配をする必要は
ないんだ

あんなものはもう絶対に見せない
だからおまえは何も気にせず
いつでも来たい時に来い
……
……大丈夫か？
汐おじさん

ありがとう
ドカァ

ほら あなた 見て
砂帆 あくびした
この顔 美帆に そっくりだな
えー あなたに 似てるわよ
なあ 汐は どっち似 だと思う？
どう見ても 美帆似 だよなあ

それじゃ私 さっそく明日 遊びに 行っちゃおっかな
あれって 蒼乃さん だよな…？

エンコーだったりしたらどーしよ
もしかしてオレらヤバイもん見ちゃったんじゃね
さすがにそれはないんじゃね
でも蒼乃さんがなあ～
まじかー
…ホント
砂帆何やってんだよ…

←30号へつづく